

**[成果情報名]赤色斑入り白色系八重咲きサツキ**

**[要約]**白系サツキ(赤色斑入り八重咲き)を育成した。本系統は、本県育成品種「伊勢路紫」の自殖種子実生個体より選抜した。開花時期は、親品種である「伊勢路紫」と同時期であるが、花色・花型に特徴がある。1)白色基調に赤色斑入り、2)白色、3)赤色、の咲き分けで、雄ずい・雌ずいが花弁化する八重咲きとなる。

**[キーワード]**サツキ、赤色斑入り、白色花、赤色花、咲き分け、八重咲き

**[担当]**三重県農業研究所 花植木研究課

**[分類]**普及

---

**[背景・ねらい]**

三重県の植木生産でサツキツツジ類は、全国第1位と上位を占めている。近年、景気の低迷、公共事業の減少の向かい風にさらされ、厳しい経営環境下にある。新しい販路の開拓や販売戦略としての新商品化に供する方策が必要である。そこで、品種バリエーションの拡大・消費拡大のために、白系サツキ(赤色斑入り八重咲き)を育成した。

**[成果の内容・特徴]**

1. 「白系サツキ(赤色斑入り八重咲き)」は、本県育成品種「伊勢路紫」の自殖種子(2001年採種)から選抜、育成された系統である(図1)。
2. 花色は、1)白色地に赤色の斑点状・縞状の斑入り、2)白色、3)赤色の咲き分けである(図2、図3、図4、表1)。
3. 花型は、筒状漏斗形で、雄ずい・雌ずいが花弁化する八重咲きである(図2、図3、図4、表1)。
4. 開花時期は、親品種である「伊勢路紫」と同時期の5月上中旬である(表1)。
5. 葉色は、夏季は濃緑色、冬季の紅葉度は低く、親品種である「伊勢路紫」と同程度である(表1)。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 公共緑化用、鉢物用と利用範囲は大きい。
2. 栽培方法は慣行の伊勢路紫に準ずる。
3. 品種登録申請を行い、三重県花植木振興会と許諾契約を締結し、穂木は三重県花植木振興会を通じて三重県内の生産者に提供される。

[具体的データ]

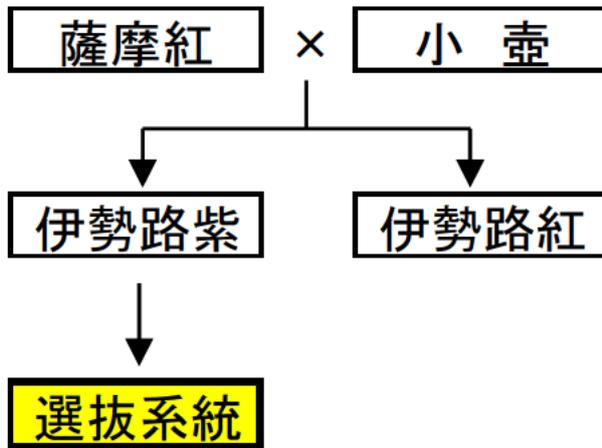


図1. 白系サツキ(赤色斑入り八重咲き)の来歴

図2. 満開時期の株姿

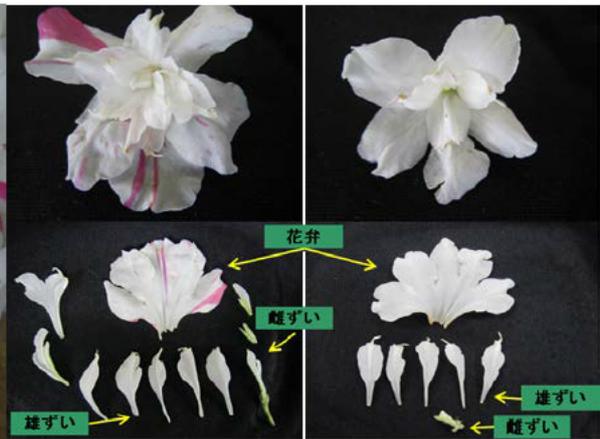


図3. 開花株の花の様子

図4. 同一株内で見られる開花状態 (上段: 全体図 下段: 解剖図)

表1 各品種の特性

品種系統名	開花時期	花色	花型	葉色		樹形
				夏季	冬季	
白系サツキ	5月上中旬	白色地に赤色の斑点状斑点上、縞状の斑入り 白色 赤色	セミダブル・ダブル (雄ずい・雌ずいの 花弁化)	濃緑色	紅葉度低い	半球形
伊勢路紫	5月上中旬	紫色の強い赤色	シングル	濃緑色	紅葉度低い	半球形

(千田泰義)

[その他]

研究課題名：白系サツキの増殖と重イオンビームによるサツキ等緑化樹の新品種育成他

予算区分：県単 研究期間：2001～

研究担当者：千田泰義・小林泰子・内山達也